

岡山県医師会消化管検診研究会講演会

日 時：平成30年2月24日（土） 14：00～17：00
場 所：岡山県医師会館 三木記念ホール

開会挨拶 岡山県医師会 会長 石川 紘

講演Ⅰ 14：05～15：20（質疑応答を含む）

演題「胃がん発生リスクを考慮した胃がん対策
～胃がんリスク層別化検診と中学生ピロリ菌検診～」

講師：医療法人敬和会 近藤病院 院長 近藤 秀則 先生

現在、真庭市が取り組んでいる胃がん撲滅対策、すなわち2次予防：ABCリスク検診、1次予防：中学生ピロリ菌検診についてお話したいと思います。

胃がん発生にはヘリコバクターピロリ（Hp）感染及びそれに伴う胃粘膜の炎症と萎縮が強く関連しており、胃がん対策において考慮することは必然である。近年、血清Hp抗体検査とペプシノゲン（PG）法を併用して胃がん罹患リスクを評価する胃がんリスク評価（ABC分類）を導入する自治体や企業も増加してきている。真庭市では、2011年度から胃がんリスク評価を基盤とした胃がん検診システムを導入した。血液検査（ABC分類）により胃がんのリスクを予知し、それぞれのリスクに応じて画像検査（X線検査あるいは胃内視鏡検査）を行い、胃がんの早期発見・早期治療（胃がん2次予防）に努めている。そして、2013年2月Hp感染胃炎に対する除菌治療が保険適用になったことにより、ABC分類でB群・C群と判定され、内視鏡検査を受けて癌がなくHp感染胃炎と診断されれば、除菌治療（胃がん1次予防）を積極的に行っている。今回は、今まで6年間の検診成績並びに経験した胃癌症例や除菌症例について供覧したい。Hp感染は幼少時（4～5歳）までにおこり、主な感染経路は母子感染（口・口感染）とされている。最近、Hp感染予防としての若年者除菌（胃がん1次予防対策）が注目されている。真庭市では全国に先駆けて、2013年度から中学生におけるHp感染スクリーニング（一次検診：尿中抗体、二次検診：尿素呼吸気試験）と除菌治療の事業を開始している。4年間でHp感染率は4.7%（54/1145）であり、除菌成功率は98%（50/51）と高率であった。また、副作用の出現率は少なく、いずれも副作用は軽微であった。Hp感染率が低くなっている現在、中学生Hp検診と除菌治療は今後わが国の胃がん撲滅に向けて、有用な対策になるものと考えている。以上、地域における実践から、現在真庭市で取り組んでいる胃がん撲滅対策について報告する。

講演Ⅱ

演題「下部消化管内視鏡診療の現状（腸炎から大腸癌内視鏡治療まで）」

15：30～16：45（質疑応答を含む）

講師：津山中病院 内科 主任部長 竹本 浩二 先生

閉会挨拶 岡山県医師会 副会長 松山 正春

大腸癌で亡くなる患者は年々増加しており、また炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病）の患者も増加の一途であり、下部消化管内視鏡診療の重要性は増すばかりである。今回、炎症性腸疾患から大腸癌の内視鏡治療まで下部消化管内視鏡診療の現状を報告する。

※日医生涯教育講座単位：3単位

講演Ⅰ 11 予防と保健（1単位）、22 体重減少・るい瘦（0.5単位）

講演Ⅱ 50 吐血・下血（1単位）、55 肛門・会陰部痛（0.5単位）

生涯教育チケット帳をご持参下さい。

また、日本内科学会認定総合内科専門医更新の2単位（予定）が認定されます。

※本講演会は、「岡山県消化管精密検診施設」更新に関わる講演会（年1回出席）に認定されていますので消化管精密検診委嘱施設の方は聴講をお願いします。

会員施設のコ・メディカルの方も奮ってご参加下さい。

講演Ⅰ、講演Ⅱとも講話後、質疑応答を受けます。

※託児希望の方は岡山県医師会HPより生涯教育⇒託児申込書をダウンロードをして2月16日（金）までにFAXでお申込下さい。FAX 086-251-6622